

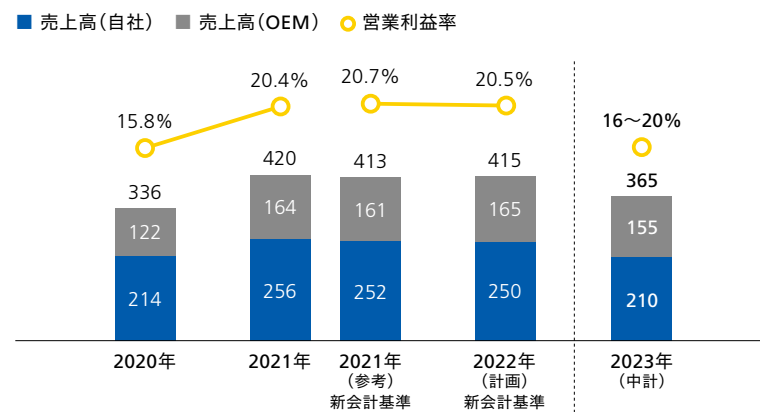
写真関連分野

Photographic Products

タムロンの焦点はいつも「人」。
世界中の人に、レンズを通じて写真をもっと楽しんでもらうために、
タムロンはこれからも「人」を見つめてレンズをつくり続け、感動を分かち合える社会に貢献します。

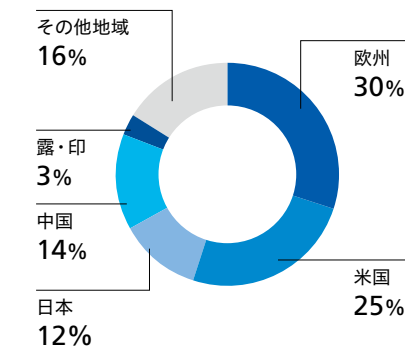
業績サマリー

中期経営計画「Vision23」(2021年～2023年)の進捗状況 (億円)



※ 2022年より新会計基準を適用。なお、2021年実績も適用したものと仮定し、参考として表示しています。

地域別売上高構成比 (2021年) (自社ブランド)



中期経営計画「Vision23」の進捗状況と今後の方針

中期経営計画「Vision23」の1年目となる2021年は、最終年度となる2023年の売上高目標365億円と営業利益率目標16~20%を初年度で達成することができました。2021年の主な取り組みとして、新フォーマットへの対応では、Xマウント用の18-300mm F/3.5-6.3 Di III-A VC VXD (Model B061)を2021年10月に発売し、ミラーレスカメラ用レンズのラインナップ拡充とともに、顧客層の拡大を図りました。

2022年は自社ブランド、OEMともに2021年

並みの売上高を見込み、2021年(新会計基準)比微増となる415億円を計画しています。微増を予想する主な要因としては、2021年は2020年の大幅減収に伴う反動増があったこと、および原材料の高騰や部材供給難の継続などによる部材のコストアップの影響が挙げられます。営業利益は2021年並みを維持し、引き続き20%台の高い営業利益率を確保する計画です。

当分野は中核事業として引き続き高収益性を保ち、シェア拡大を目指します。

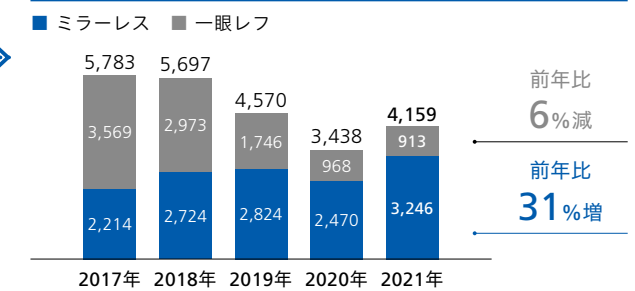
分野の特徴

取扱製品	一眼レフカメラ用交換レンズ／ミラーレスカメラ用交換レンズ
生産方式	自社ブランド製品／OEM製品
納入先	家電量販店・ネット家電販売店等(自社ブランド製品)、大手カメラメーカー(OEM製品)
ユーザー	消費者

市場環境

レンズ交換式カメラ	前年比21%増
交換レンズ	前年比35%増 APS-C等：前年比1%増 フルサイズ等：前年比49%増
コンパクトデジタルカメラ	前年比4%減

レンズ交換式カメラの市場環境 (億円)



2021年の成果と2022年の戦略

2021年の成果

売上高は前年比25%の増収となる420億円を達成しました。自社ブランド製品は市場回復を牽引しているミラーレスカメラ用の新製品投入に注力し、42億円の大増収となりました。また、OEM製品も2020年からの反動増に加えて、受注機種増加により42億円の大増収となりました。

営業利益は、売上高の大幅な伸長と事業運営コストの適正化を図ったことから2020年比60%の増益となる86億円となりました。また、営業利益率は20%の高利益率を達成しています。

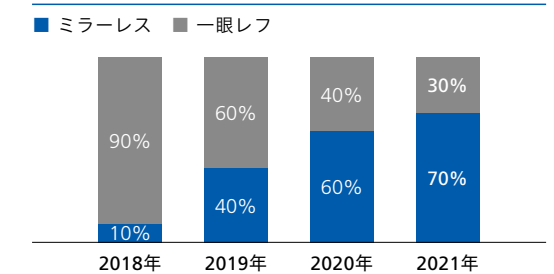
2022年の戦略

自社ブランド製品は、継続的に年間5機種程度の新製

品を投入する方針に基づき、2022年もミラーレスカメラ用交換レンズのラインナップを拡充していきます。

これまでの継続的な新製品の投入により、ミラーレスカメラ用の売上構成比は、2020年の約60%から2021年は約70%になりました。2022年にはこの比率を約80%にまで引き上げ、更なるシェア拡大を目指します。

自社ブランドのミラーレス比率



価値創造の取り組み

関連するSDGs ▶

タムロンは、写真の持つ美しさを通して、人々に感動や驚きといった価値を提供しています。2021年には、35-150mm F/2-2.8 Di III VXD (Model A058)を発売しました。大口径ズームレンズは焦点距離70mmを境にして24-70mmと70-200mmの2本に分かれますが、当製品は70mmを中心に35-150mmを1本で撮影ができます。また、広角端ではF2の明るさを実現するなど、高い描写力を誇っています。このような製品の提供を通して、タムロンは多様な文化の理解促進に貢献しています。



35-150mm F/2-2.8 Di III VXD (Model A058)

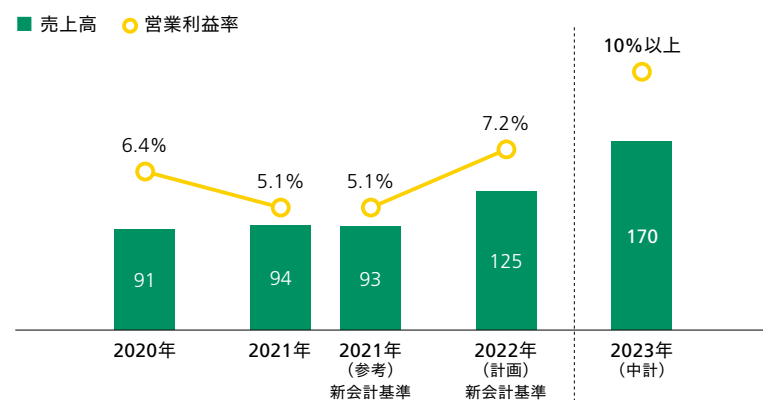
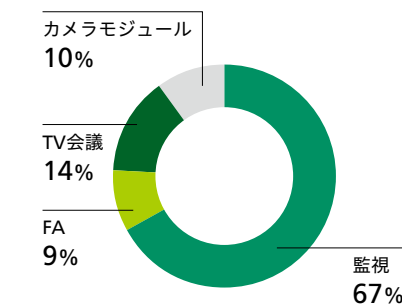
監視&FA関連分野

Surveillance&FA Lenses

監視分野において、レンズは社会の眼となり安全を守る力となります。
これからもグローバルな市場のニーズを捉えた製品を開発・販売することで、
安心・安全な社会に貢献します。

業績サマリー

中期経営計画「Vision23」(2021年～2023年)の進捗状況 (億円)

用途別売上高構成比 (2021年)
(監視／FA)

中期経営計画「Vision23」の進捗状況と今後の方針

中期経営計画「Vision23」の1年目となる2021年は、監視カメラ用レンズやFA／マシンビジョン用レンズは増収となりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大による市場の低迷の影響を受けた結果、計画値は未達となりました。また、TV会議用レンズは半導体不足による需要減少により、減収となりました。結果、監視&FA関連分野全体としては売上高100億円の大台にはわずかに届きませんでした。

一方で、監視分野においては、画像の高精細化が進んでいます。これにより、4Kを含めタムロン

の強みである高性能・高品質な製品への需要が拡大してきました。また、FA分野においては2020年末から2021年にかけて新たに6機種を発売し、ラインナップの拡充を図っています。さらに、今後成長が見込まれる短波赤外光領域(SWIR)対応産業用レンズの開発や顧客開拓を進めました。

2022年は各分野において開発スピードを緩めることなく前進させ、売上高は2021年(新会計基準)比34%増収の125億円、営業利益は89%増益の9億円を計画しています。さらに、2023年には監視&FA分野の売上高構成比20%台を目指します。

分野の特徴

納入先	・米国・欧州・中国・韓国・台湾など、世界の主要カメラメーカーおよび工作機械メーカー ※ 当社は主要メーカーとの関係を深めて需要を把握し、協業を推進
当社の強み	・4Kにも対応可能な高精細な製品の開発および製造力(将来的には8Kも視野)
関連する社会課題	・防犯をはじめ、看護や介護などの見守りなど、より安全で安心して暮らせる環境づくり ・新型コロナウイルスに代表されるパンデミック対応のためのビルや公共施設などにおける体温検査

市場環境

トレンド	新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるロックダウンが解除され、各国政府の経済対策により市場動向は緩やかに回復
監視分野への需要	成長が継続

2021年の成果と2022年の戦略

2021年の成果

新型コロナウイルス感染症の拡大や、世界的な半導体不足による需要減少の影響を受けましたが、売上高は前年比3%の増収となる94億円を達成しました。特に監視カメラ用レンズやFA／マシンビジョン用レンズは主要顧客への採用機種拡大により、10億円の増収となりました。一方で、TV会議用レンズは半導体不足による顧客の減産などの影響により、7億円の減収となりました。営業利益については、今後の市場成長を見据えた新分野への投資、製品開発への注力により前年比17%の減益となる5億円となりました。

2022年の戦略

監視&FA関連分野における市場の拡大は今後も継続することが予想されます。この成長基調を受け、タムロンにおいても既存製品の拡販および新製品の開発に注力します。特に、監視分野では年々需要が高まっている高精細カメラに対応するレンズの開発に注力するほか、FA分野では2020年から2021年にかけて導入した製品の販売を強化していきます。同時に、両分野における主要メーカーとの関係維持・強化も行っていきます。

さらに今後はカメラモジュールでのビジネスを強化すべく、アメリカ国防権限法(NDAA)を順守した製品を開発し、市場へ導入していきます。

価値創造の取り組み

関連するSDGs ▶

タムロンの製品は産業の発展や安心・安全なまちづくりなど、さまざまな場面で社会の役に立っています。例えば、FA分野では検査物質の特定に使用され、工業用途や医療用途などでの活用が期待されるSWIR用レンズを2021年に3機種発売し、ラインナップを拡充しました。また、監視分野では安心・安全に貢献するレンズのラインナップを拡充し、屋内／屋外用途、ミドルレンジからハイエンドまで、さまざまな要望に対応しています。



モビリティ&ヘルスケア、その他事業分野

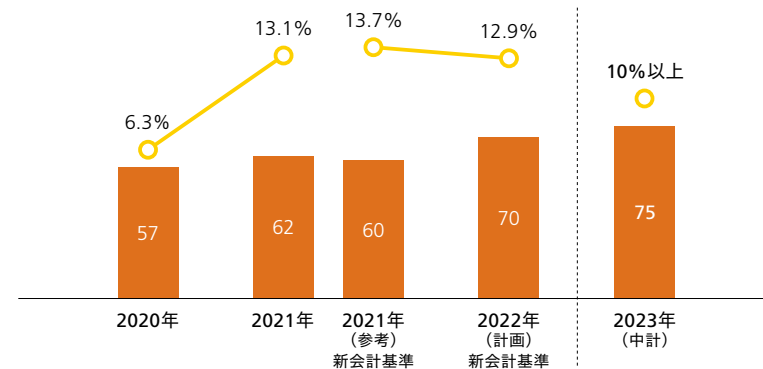
Mobility & Healthcare Products, Others

自動運転化が進む自動車分野における車の眼として、
低侵襲化が進む医療分野では医師の眼として、
私たちの製品・技術は人々の安心・安全や健康に貢献します。

業績サマリー

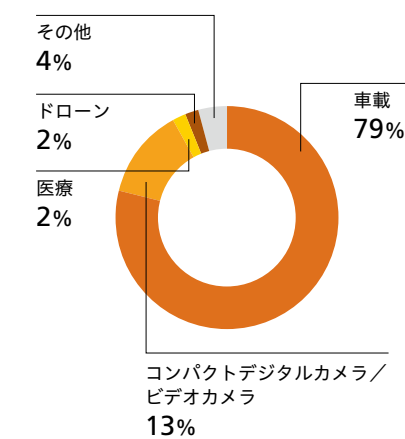
中期経営計画「Vision23」(2021年～2023年)の進捗状況 (億円)

■ 売上高 ○ 営業利益率



※1 2022年より新会計基準を適用。なお、2021年実績も適用したものと仮定し、参考として表示しています。
※2 2021年より表示セグメントを変更(従来のレンズ関連事業と特機関連事業の「監視／FA関連事業」以外を統合)。
2020年の実績は組み替えて表示しています。

カテゴリー別売上高構成比(2021年)



中期経営計画「Vision23」の進捗状況と今後の方針

中期経営計画「Vision 23」の1年目である2021年は、2023年の営業利益率10%以上の目標を2年前倒しで達成することができました。これは、タムロンが注力しているセンシング向け車載用レンズの積極的な営業活動と、市場の成長に伴う大幅な増収が大きな要因として挙げられます。加えて、販管費の抑制や生産数量増による生産性の向上など、収益性改善策が功を奏したことも大幅増益の要因となりました。また、医療分野においても既存パートナーへの営業深耕により

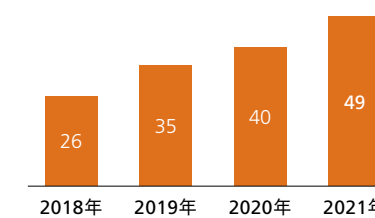
次世代案件の受注も好調な伸びを示すなど、順調な成果を出すことができました。

2022年も、車載分野の2桁増収の継続と医療分野の増収を見込み、モビリティ&ヘルスケア、その他事業分野全体で2021年(新会計基準)比10億円の増収を見込みます。特に医療分野については、2024年以降の中期経営計画における次世代の柱の一つとすべく、既存パートナーとの更なる関係強化とともに、新規パートナー開拓に注力し、事業拡大を加速させていきます。

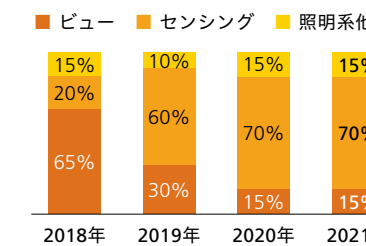
▶ 車載

業績サマリー

売上高 (億円)



用途別売上高構成比(車載)



自動運転レベルマップ

自動運転レベル	実用化時期
レベル1 運転支援	実用化済
レベル2 部分的自動運転	実用化済
レベル3 条件付自動運転	実用化済
レベル4 高度自動運転	2025～30年
レベル5 完全自動運転	時期は非設定

分野の特徴

製品の特徴

- ・人の安全に関わるため、高耐久・高品質が必須となる。受注が決定してから顧客・ユーザーとともに3～4年にわたり開発・信頼性試験を繰り返し量産へとつないでいく。製品ライフサイクルも非常に長いため、長期でのビジネスプランを立てやすい

関連する社会課題

- ・地球温暖化や燃料枯渇などの環境問題
- ・地方の過疎高齢化と人材不足による移動手段の確保

市場環境

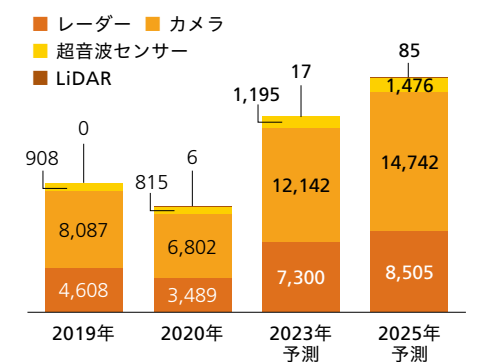
トレンド

- ・高度な運転制御の要求に伴い、ADAS※センサーの高画素・高機能化やセンサー搭載数の増加が進む
- ※ ADAS:「Advanced Driver Assistance System」の略。自動ブレーキ装置や急発進防止装置などを含む先進運転支援システムのこと

自動運転関連市場

- ・完全自動運転の実現に向け、各国それぞれの法規制の整備が進む
- ・センシング用途において、多岐にわたるアプリケーションの需要が高まる

ADAS／自動運転センサー市場規模 (億円)



出典:「ADAS／自動運転用センサーの世界市場規模予測」
矢野経済研究所

2021年の成果と2022年の戦略

2021年の成果

ADASの搭載率が上がったことにより、センシング向け車載用レンズの販売が好調に推移し、売上高は前年比20%の増収となる49億円を達成しました。この増収には、高画素化などへの技術的な対応や、高品質な量産化を実現する生産体制の強化を行ってきた成果も現れています。また、営業利益についても、車載用レンズの大幅増収に加えて、販管費の抑制や生産性の向上に努めた結果、前年を大幅に上回る増益となりました。

一方、生産面では世界的な電子部品の供給不足の影響もあり、断続的な生産調整を強いられる結果となりました。

2022年の戦略

引き続きセンシング向け車載用レンズを注力分野と定め、中長期的な視点からユーザーに対して高品質の製品を提供するための技術開発を推進し、顧客との協業を加速させます。また、マーケットシェアが大きい欧米顧客の新規開拓を目指していきます。

価値創造の取り組み

関連するSDGs ▶



タムロンは製品の提供を通じて、人々の安全な暮らしや技術革新に貢献しています。例えば、高度な制御が必要とされるADASに対応するためのセンシング向け車載用レンズを提供することで、交通事故削減に貢献しています。また、これまで金属鏡筒が主流だったセンシング向け車載用レンズにおいて、設計段階から高度なシミュレーション技術を用いることで、高品質・高精細かつ小型・低コストのプラスチック鏡筒を実現しています。



車載用レンズ

価値創造の取り組み

関連するSDGs ▶

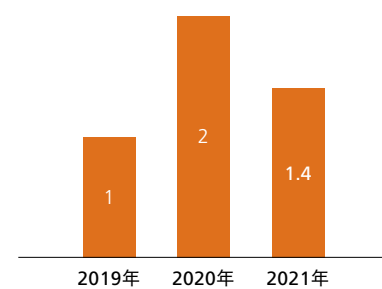


人の眼では見えなかった患部や細胞をより鮮明により深部まで可視化する技術を究め、低侵襲でより正確な患部特定／診断できる先端医療機器の実現に貢献しています。これからも10～20年先のニーズをとらえ、テクノロジーの深化を継続して先端医療技術の発展と患者のQOL向上に貢献していきます。

▶ その他事業

業績サマリー

売上高（億円）



分野の特徴

市場の特徴

- ・人命に関わるため、高品質・高信頼性が求められる
- ・3年程度に及ぶ開発スパンの後、信頼性評価を要するなど、市場導入までの期間が長い。一方で、製品ライフサイクルは非常に長く、長期のビジネスプランを立てやすい

関連する社会課題

- ・世界医療費の財政圧迫
 - ・診察・検査・手術などの治療において、自己診断や低侵襲手技※に関する医療機器の価格高騰
- ※ 低侵襲手技とは患者の体に対する侵襲（負担）を減らした体にやさしい手術方法などのこと

市場環境

トレンド	・低／非侵襲・AI診断・ロボティクス・遺伝子医療・再生医療・免疫医療など多岐にわたる先端医療技術の開発により、患者のQOL向上にイノベーションが起こりうる転換期
医療機器市場	・医療機器・ヘルスケア市場の年平均成長率5.4%（2028年まで予測）

2021年の成果と2022年の戦略

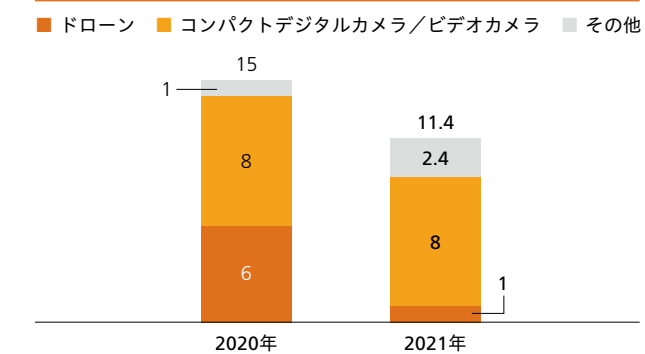
2021年の成果

新型コロナウイルス感染症の影響が継続し、医療施設への機器投資が鈍化した結果、売上高は前年比30%の減収となる1.4億円となりました。一方、先端医療へ着目した将来の成長エンジンとなる新規プロジェクトを受注し、極小径レンズや薄膜技術などの開発に着手するなど、今後の事業拡大に向けた取り組みを推進しました。

2022年の戦略

先端医療技術実現のための光学・分光・蛍光技術を深化させ、経済的価値・社会的価値を創出していきます。具体的には、既存ビジネスを着実に成長させ増収を図るほか、その他案件についても今後の事業規模拡大を見据えて受注につなげていきます。さらに、協業パートナーの開拓・関係強化にも努めます。

売上高（億円）



※ 2021年より表示セグメントを変更。2020年の実績は組み替えて表示しています。

2021年の成果と2022年の戦略

2021年の成果

コンパクトデジタルカメラ用レンズやビデオカメラ用レンズは市場が成熟する中で前年並みの売上高を維持しました。一方ドローン用レンズは、既存製品の伸び悩みや新機種の市場導入が進まなかったことから減収となりました。

2022年の戦略

コンパクトデジタルカメラ用レンズやビデオカメラ用レンズは引き続き2020年並みの売上高を確保していきます。また、産業用ドローンは関連する社会課題が多岐にわたり、それに伴って製品ニーズも細分化されています。このような細かなニーズに対応するため、タムロンでは他分野の技術も活用したビジネス展開を目指します。また、ドローン以外の成長分野の開拓も視野に入れ、車載・医療分野と合わせた事業拡大を図っていきます。